

科目名	ビジネストレーニング 2						年度	2026	
英語科目名	Business Training 2						学期	後期	
学科・学年	コンサート・イベント科 2年次	必/選	選	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	今田真	教員の実務経験		有	実務経験の職種		マネージャー、ディレクター等		
【科目の目的】 実際に業務に就くとそれぞれの会社・業種に応じ新たに覚えるべきことが多々ある。エンタテインメント産業の周辺産業については複数の科目で補充していくが、社会人となり年数を重ねると先輩社員となり、さらに上司、経営陣に加わることも想定される。またフリーランスや経営者として独立することも然りである。エンタテインメント産業を中心に、ビジネススキルと合わせて社会人としての一般教養を習得していく。基本的に年上の人たちの中に入っていくが、持ち合わせておいたほうがよい資質や慣習など知らなかったでは済まされないケースもある。社会人として有意な情報を獲得していく。									
【科目の概要】 社会人として生活をスタートし、さまざまな壁とぶつかりながらそれら乗り越えていくことで成長することや、苦しみながらもやり遂げて初めてそこに「やりがい」を感じることができる。そのような経験を重ねていくことで得られることは貴重である。働き方など就職時期が近づいてくると、想像だけの不安も増えること、またもう少し先のことを考えるようになるため、一社会人としての情報などを理解しておくことについてポイントを絞り、予備的な知っておいたほうが有利なことなどを知る。ビジネススキルとともに、社会人スキルについて情報を提供し、自分なりの解釈で捉え身につけていけることを最大の目的として、目先、もう少し先までを見据えた展開をしていく。									
【到達目標】 授業で伝達すべきねらいとして設定する履修目標・内容に対して、それを受講した際、習得意欲をもった理解を到達目標とする A. ビジネスの基本である「読み・書き・そろばん」を具現化して自分のスキルとして活用できるようになる B. ビジネスをしていくために経営という概念を持ち、そのために必要になる情報を収集して分析できる力をつけていく C. 卒業時には20歳を過ぎるため、社会ルールと責任を自覚し、自分が暮らしやすい環境を整え年数を重ねていくための素地を形成する									
【授業の注意点】 授業開始時には筆記（入力）ができる状況にしておく。要点や不明点を書き出し調べ、解決ができないことは質問をする。知的好奇心を持ち続け、波及・派生した情報を自得していく。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	ビジネスマナーを習得し、また社会人としての資質を兼ね備えた立ち振る舞いができる	作業などに落ち着いて取り組み、メモをしながらテーマに漏れない文書作成ができる。	基本文書が作成でき、構文や表現など業務上求められる範囲で作成できる。	企画書面、依頼書などの文書を読み、すぐにその内容を理解し把握することができる。	独りよがりの結論に帰結してしまい、客観的に現在地を把握できていない状況。				
到達目標 B	仕事の意味と現在の業務（課題）を理解し、適切なアプローチができ最善の方策で仕上げるができる。	B/S、P/Lを読むことができ、経営者目線を持ち合わせ経済関連の情報を理解している	メンバーシップとリーダーシップの意味を理解し、個でも集団でもやるべきことを理解している。	情報の分類とそれらを整理することが無難にできる。積極的な課題発見に向かう姿勢はある。	情報収集の方法を理解していない。その必要性に応じたファイリングができない状況。				
到達目標 C	社会の仕組みそのものを理解し、トラブルの対処する度合いに応じた対応ができ、個人での判断が適確である。	社会一般での教養を身につけ、新たな事象に対して正確に捉える力を有し、社会を渡る力を備えている。	各業種での内容と関連業種について具体的なやりとりを理解している。	社会ルールである納税や法律を一定理解し、為すべき対応が凡そできる。	社会人としての素養を基本から理解していない。当事者意識と主体的な獲得の必要性を自覚していない。				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 授業内で使用する必要がある場合は配布、当日実施した授業内容の要点のまとめ、追加事項を毎回分Webでアップロードする									
【参考資料】 逐次授業内で指示、予備的に情報を要求する場合は授業最後に、またWeb上で指示する									
【成績の評価方法・評価基準】 定期試験、授業内課題、定期提出物、簡易試験									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ビジネストレーニング 2			年度	2026
英語表記		Business Training 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	成人のルール	18歳成人が施行されたが、高3の18歳では制限がある。成人と未成年の相違点を理解する	1 成人とはなにか	成人の年齢別による権利と義務について理解する。	3	
			2 卒業時は全員が成人	事実上の成人は未だ20歳であり、できることを理解しておく。		
			3 心理的な年齢	実年齢と精神的な年齢の差異についての知識を得ておく。		
2	この国のルール	日本で生きていく上で暮らしやすい生活を望むとき、その生活を享受するための理解	1 この国のルール	最高法規（103条）から抽出して関係が深いものを理解する。	3	
			2 いろいろなルール	毎年150前後の法律が成立し、それらの影響を理解しておく。		
			3 ルール違反はNG	法に触れるとどうなるのか、いろいろな法を理解しておく。		
3	ルール内でできること	主権は国民にあり、生活も保障されているはずだが、実情は違っていることを理解する	1 困ったら助けてくれる	多額の借金、生活苦などはこの国が補償するルールを知る。	3	
			2 制限もある	国民主権だが、これは条件付きの主権であることを理解する。		
			3 権利がある	仕事を選び、住むところも結婚も自由であることなどを知る。		
4	税について	国民三大義務で唯一罰則があるのが納税の義務である。税金の仕組みと種類を理解する	1 誰も教えてくれない	税率や新規の税法が成立しても自分で情報を得ることになる。	3	
			2 税の仕組み	この国にはどのような税があるのかを理解しておく。		
			3 直接税と間接税	国税と地方税を含めて納税の仕組みと用途を理解しておく。		
5	確定拠出年金	自分で自分の将来を糧（年金など）を生み出す時代に必要な知識を理解しておく。	1 確定拠出年金	求人票の条件にも増えてきたこの仕組みを理解しておく。	3	
			2 自分で増やす（減らす）	頼れるのは自分、しかしプロの手を借りることもできること。		
			3 これから増える	タンス預金の引き出し、資産運用などの基本情報を理解する。		
6	食と安全	健康の源である食物について、将来にわたり食の安全について考える必要性を理解する	1 食品添加物	日本の厚労省の基準と世界基準の相違を知る。	3	
			2 世界で規制されている	パンがずっと柔らかいことに疑問を持つことから始める。		
			3 清涼飲料水	何気ない糖の大量摂取にヴィジュアルで確認しておく。		
7	薬物の危険性	やせ薬、ストレス解消などと気楽に入手ができるドラッグの危険性を十分に理解する	1 身近にある危険薬物	安易に手を出させる手口などを解説し、周知をうながす。	3	
			2 ダルクの活動	薬物依存者で形成する活動から、薬物の脅威を確認する。		
			3 医療大麻	違法ドラッグとの違いと正しい認識を確認しておく。		
8	消費者を守る	日頃消費活動をしているなかで、命に関わる法律について正しい活用と知識を理解する	1 PL法	モノが壊れその責任の所在を明らかにする法律を知る。	3	
			2 未成年者の保護	学生は既に成人であるが、民法上の保護規定を理解しておく。		
			3 クーリングオフ	通販は除外しているこの保護規定の方法を理解しておく。		
9	刑事事件と民事事件	社会のほとんどを占める民事事件と刑事事件の違いを、当事者となった時の為に備える	1 民事	金銭トラブルなどが多く、身近な問題として認識する。	3	
			2 刑事	当番弁護士制度など、身を守る手段を確認しておく。		
			3 安全対策	訴訟にならないように日頃の準備をしておく必要性を確認。		
10	ビジネストラブルの解決手段	裁判という怖いイメージがあるが、最終手段でもあり誰でも提起できることを知る	1 裁判とは	裁判の規定と、三審制、法に照らしての正当性を争うこと。	3	
			2 少額訴訟から	60万円以下で提訴できる少額訴訟は身近な存在であること。		
			3 実際の裁判	費用から機関まで、まずは相談できる窓口を理解しておく。		
11	くらしと行政	人々が暮らしやすい社会を目指すために、この国の制度と合わせて政治思想などを確認	1 民主主義とそれ以外	日本の制度としての民主主義と、他国との相違を理解する。	3	
			2 大きくは変わらない	一票の重要性を解説し、その格差問題なども理解しておく。		
			3 身近から変えていく	米国・欧州では地方議会から意見をいうなどの動きを理解。		
12	ビジネスとルール	公共という科目が中高で始まったが、そこから引用して身近な暮らしの行政を理解する	1 市役所	区市町村役場、役所の役割と住民サービスについて理解する。	3	
			2 ビジネスのルール	行政とビジネスの関わる事例をエンタメ分野で確認しておく。		
			3 細かいルール	多種多様な法律が仕事をしていく上で関わることを知る。		
13	投資について	確定拠出や政府の推しなどもあり投資に誘導されているが、自己資産の形成ということ	1 新NISAとiDeCo	仕組みとメリットについて理解しておく。	3	
			2 フラントや先物	専門家でも危険な商品があることも理解しておくべきである。		
			3 投資信託など	金融商品など、自分で判断できる素材を提供して確認する。		
14	命とテクノロジー	生命倫理について、宗教的、科学的、倫理的側面で解説し、偏重なく現実を理解する	1 病気と医療	ips細胞など日進月歩であり、医療現場の声を確認しておく。	3	
			2 命の重さとはいうが	アニッサアラヤの事例を紹介し、考察し、理解しておく。		
			3 数百年後には	塩基配列はほぼ解読できている現在と未来を考察する。		
15	後期のまとめ	社会で生きていく、そしてずっと先まで見据えることも考えておく年齢でもあること	1 相続	嫌でもやってくる（きた）ことであるため確認しておく。	3	
			2 自己啓発など	怪しいセミナーなどの事例を紹介し、安易に手を出さない。		
			3 自力と他力	本気で相談できる人がいること、周囲の力を借りる勇気。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等 授業終了後にまとめをアップロードし、それを次回授業の冒頭で確認していくため、欠席などで受講していない場合はこれに対応する。また、定期的に簡易テストを実施し、その場で自己採点をするなどで本人の理解度を把握できるようにする。その場でフィードバックをして授業の進捗、内容的な難易度、時間のかけ方などについて、可能な限り逐次修正していく。